

# GAPの価値を共有するフードチェーン連携パートナー会（東海ブロック） 概要

日 時：平成30年10月11日（木）13:30～16:20（場所：名古屋能楽堂会議室）

参加者：農業者、農業団体、食品製造・流通・小売業者、行政機関等

## 【東海農政局 幸田局長挨拶】

本日のパートナー会は、東海地域のフードチェーンを担う方々にGAPの意味合いの理解を深めていただき、関係者の具体的な行動に移行していくきっかけとして企画した。

## 【農林水産省生産局 新本農業環境情報分析官 国際水準GAP推進について】

全国各地で「GAPの価値を共有するフードチェーン連携パートナー会」を開催している。GAPは農業人材の育成、我が国農業の競争力の強化に有効であり、国としてもGAP拡大を推進していく。

## 講演の概要

### 安心農業(株) 藤井社長

農業の現場から見たGAPの必要性 ～知っておきたいGAPのこと～



### OGAPは道具であり、農場経営の“守備力”の強化に有効

GAPは農場でのリスクの抽出、外部監査等を活用して継続的に改善していく取組ですが、最初の私のGAPに対する印象は、記帳など面倒、負担になるといったものでした。しかし、次第にGAPは事故を起こさないようにするための守備力強化の道具であると考えようになりました。道具ですから良い農場とするためのGAPの使い方は目的に応じて自由なのですが、これからGAPに取り組む農業者は守備練習として地道に取り組んでいくことが重要です。

### OGAPの3つの安全（食品安全、環境保全、労働安全）

消費者への安全としての食品安全、周囲への安全として環境保全、自分を含めた農場で働く人への安全として労働安全があり、リスクを下げるためにGAPを活用できます。

野菜では、堆肥や人などを通じた汚染リスクがありますが、食品安全のために工程ごとにチェック事項を定めて汚染リスクを下げる必要があります。環境についても、地域と共存していくために、環境を汚染するリスクを下げていく取組が必要です。

労働安全では、他産業では死亡者数は大きく減っている一方、農業だけが横ばいで自分としては非常に悔しい気持ちです。農業者は農機操作、草刈り等で危険性を認識せずに農作業を行っている場合があり、各農業経営者がGAPを活用して、リスク分析、対策等事故防止に取り組む必要があります。

### OGAPを自分のために使う

GAPは農業経営者が目指す良い農場に近づけるための道具ですが、流通・小売業者から見れば、取引先の農場が失敗・エラーのない信頼できる経営であることを示すもの

です。第3者に見てもらえるような農場の実現等を目指して、まずは、自分の農場の点検、目指す農場の目標を設定するなどの行動からスタートしてください。

## イオン・アグリ創造(株) 岡室長 流通・販売からみたGAPの必要性と直営農場の取り組み



### ○イオン・アグリ創造(株)でのGAPの取組

当社の全国21農場全てでGLOBALG. A. P. 認証を取得しています。これは、GLOBALG. A. P. が世界で認証数約19万と実質的な世界標準となっていること、規模拡大、広域流通、企業的農業、人材育成に重点を置く会社の経営方針にもマッチしていることから会社の方針として取り組んでいます。また、GAPの特徴として一番重視し、共感しているのは、限りある経営資源を最大限に有効活用することが前提にあることと感じています。

GAPの実践では、常にリスク評価がスタートであり、改善志向の組織風土の醸成に取り組んでいます。特に、認証審査の際の審査員等からの指摘は成長のチャンスと考えており、見つかった不適合は根本原因をなくすことを意識し、多額の費用を払って得た気づきのチャンスを逃さないようにしています。

### ○流通・小売りから見たGAP

商品の差別化として、イオンとして畑まるごと販売、リードタイムの見える化等があると考えていますが、これらのベースとしてGAPがあり、農場の組織としての差別化戦略として位置付けられると考えています。日本ではそこまで至っていませんが、欧州ではGLOBALG. A. P. 認証を取得していることが当たり前で、取得していない農業者は大手流通業者からは買ってもらえない状況になっています。

イオングループとしては、消費者側からの要望に応えるため、持続可能な農業の「見える化」に取り組んでおり、GLOBALG. A. P. 認証農場で生産された農産品についてアジア初のGLOBALG. A. P. Number (GGN) ラベルを貼付する取組を開始しました。

### ○世界の食品安全のトレンド

世界のトップランナーの企業であっても、最前線の情報を得ないと生き残っていけないとする危機感をもっている企業が多い状況です。他の企業と同じ言葉で理解できる土壌を整える意味でも、企業活動の食品安全に関する活動を行っているGFSIの国際会議には世界の大手食品企業が集まって来ています。流通業界と農業の現場では大きな温度差がありますが、GAPの取組はすぐに始めた方がメリットがあると考えています。

## アンケートに寄せられた参加者の声

大半の参加者からはGAPに対する理解が深まったとの感想が寄せられました。

また、「義務感でGAP取得の準備をしていたが、効率向上や労働安全等健全経営のために進んで取組みをしようと思った」とするご意見や、「GAPは道具である。使い方は自由である。という点に共感した」とするご意見等が寄せられました。